

平成
26年度

全国体力・運動能力、 運動習慣等調査 結果報告 (指宿市)

柔軟性に課題あり 中学生の体力は向上 体力向上への積極的な取組と運動の日常化を！！

文部科学省は、全国の小・中学生の体力・運動能力や運動習慣等を把握・分析し、体力向上に係る施策の成果と課題を検証し、改善を図るために、小学校5年生と中学校2年生を対象とした標記の調査を実施しています。指宿市内の小・中学校も、平成26年度の調査に参加しました。教育委員会及び市内の各学校では、この結果をもとに実態を把握し、体力向上に向けた取組を充実していきたいと考えています。

なお、この調査は小学校5年生と中学校2年生の2学年のみの実施であることから、市内の全児童生徒の体力を示しているというわけではありません。また、実技調査8項目及び運動習慣等の質問紙による調査で、体力等の一部分を示したものであり、あくまで学校における教育活動の一側面であることを御理解ください。

調査期間

平成26年5月～6月

調査対象

小学校第5学年，中学校第2学年

実技に関する調査

小学校・中学校ともに8項目の実技調査

握力(筋力)……左右握力の平均値 (kg)

上体起こし(筋パワー・筋持久力)……30秒間に上体を起こした回数 (回)

長座体前屈(柔軟性)……長座位で前屈したときの両手の前方への移動距離 (cm)

反復横とび(敏捷性)……20秒間に両脚で左右側方に反復跳躍した回数 (点)

20mシャトルラン(全身持久力)……20m走行の折り返し回数 (回)

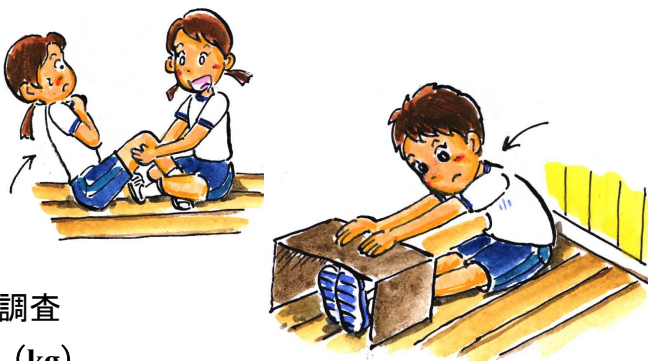
50m走(疾走能力)……50mの疾走時間 (秒)

立ち幅跳び(筋パワー・跳躍能力)……両脚で前方へ跳躍した直線距離 (cm)

ボール投げ(巧緻性・投球能力)……小学校はソフトボール，中学校はハンドボールを遠投した距離 (m)

運動習慣や運動への興味・関心に関する質問紙調査

運動意欲，日常の運動習慣や環境などに関する質問調査



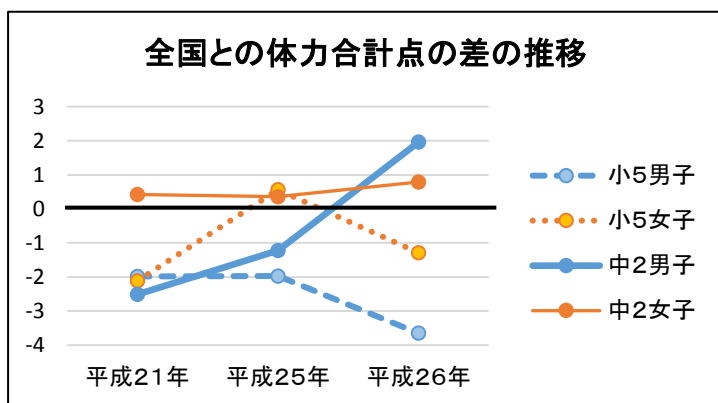
平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果（指宿市）

1 指宿市の体力の推移（3回分の比較）

平成22・24年度は抽出調査，平成23年度は東日本大震災のため中止

（1）体力合計点の推移

| | 平成21年度（悉皆調査） | | | | 平成25年度（悉皆調査） | | | | 平成26年度（悉皆調査） | | | |
|------|--------------|-------|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|
| | 指宿市 | 県平均 | 全国平均 | 全国との差 | 指宿市 | 県平均 | 全国平均 | 全国との差 | 指宿市 | 県平均 | 全国平均 | 全国との差 |
| 小5男子 | 52.21 | 53.40 | 54.19 | -1.98 | 51.90 | 53.07 | 53.87 | -1.97 | 50.26 | 53.43 | 53.91 | -3.65 |
| 小5女子 | 52.49 | 54.08 | 54.60 | -2.11 | 55.26 | 54.02 | 54.70 | 0.56 | 53.72 | 54.75 | 55.01 | -1.29 |
| 中2男子 | 38.79 | 40.42 | 41.30 | -2.51 | 40.56 | 40.29 | 41.78 | -1.22 | 43.70 | 40.71 | 41.74 | 1.96 |
| 中2女子 | 48.29 | 46.86 | 47.87 | 0.42 | 48.78 | 47.32 | 48.42 | 0.36 | 49.45 | 47.97 | 48.66 | 0.79 |



<現状及び課題>

【小学校】

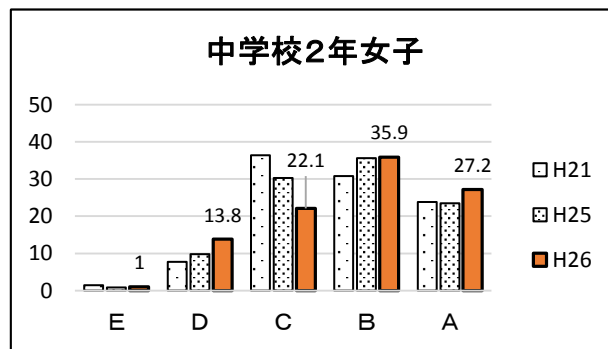
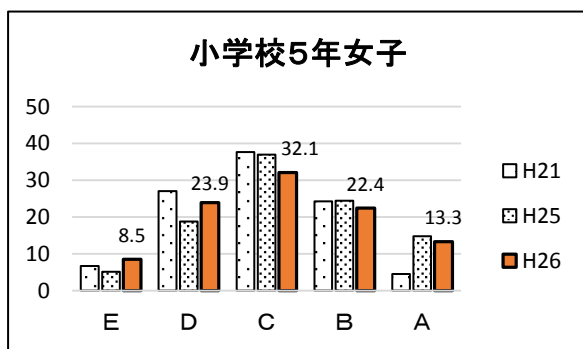
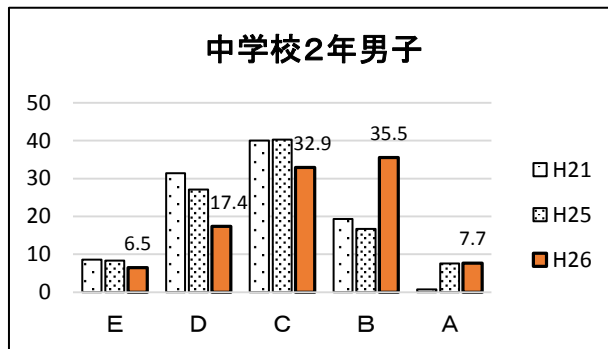
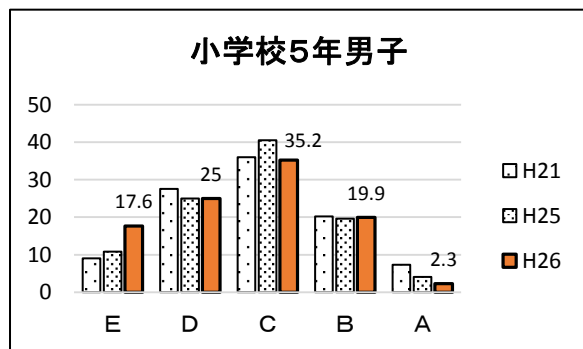
- ・男子は年々体力合計点は低下し，全国との差も段々と開いてきている。
- ・女子は昨年度は全国を上回ったが，今年度は1点以上低い結果となった。

【中学校】

- ・男子はかなりの体力向上が伺える。昨年までは全国を下回っていたが，今年度は大きく上回っている。
- ・女子は常に全国を上回っている。

（2）体力総合評価（5段階評価）の推移

※ 小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下



<現状及び課題>【小学校】

- ・男子は，得点の高いAの児童が年々少なくなってくる一方で得点の低いEの児童が年々増えてきている。女子は，昨年と比べてA，B，Cがそれぞれ減少している分，D，Eが増加している。
- ・全体的な体力の向上が課題である。

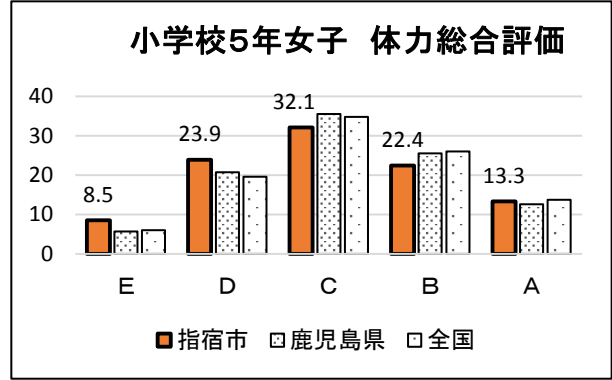
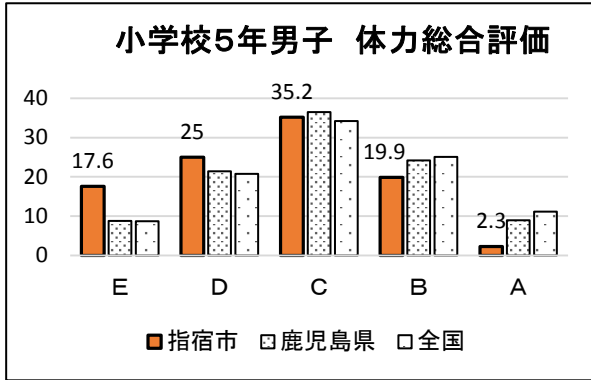
<現状及び課題>【中学校】

- ・男子は下位の生徒が毎回少なくなっている。その分得点の高いBの生徒が大幅に増えた。女子は毎回下位の生徒が少なく，上位の生徒が多い。
- ・課題は，女子の中でCやEの生徒が少ないが，Dが増えている点であり，ここに二極化の傾向が伺える。

2 平成26年度の体力・運動能力等の分析(小学校)

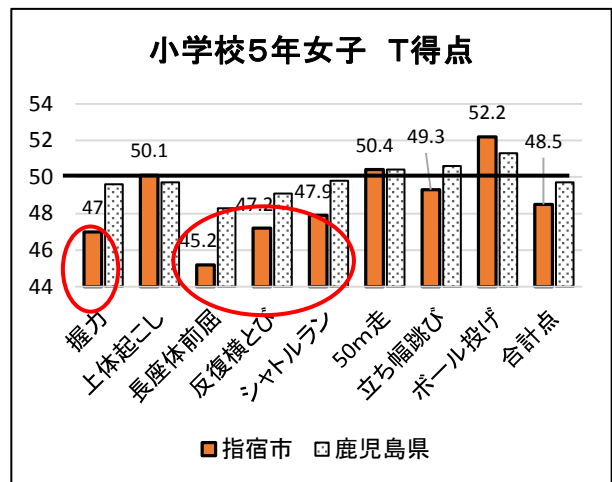
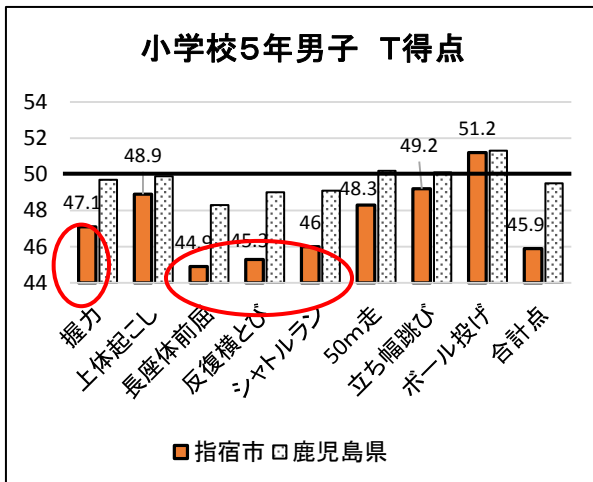
(1) 体力総合評価(5段階)の全国, 鹿児島県との比較

※ 小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下



(2) 各実技調査項目のT得点(指宿市, 鹿児島県の全国との比較)

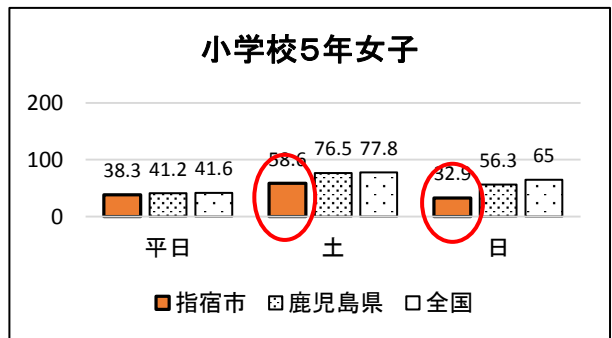
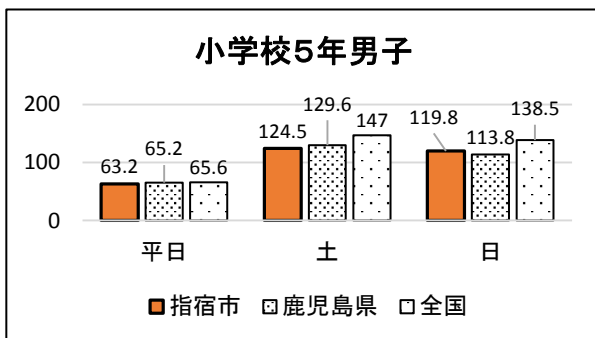
※ T得点とは, 全国平均値に対する相対的な位置を示す。全国の平均値(Tスコア)は50点で表す。



<課題及び改善策>

- ・男女ともに, 全国や県と比較して, 体力総合評価の下位の児童の占める割合が高い。一方, 上位の児童の占める割合が低い。また, 男子の項目別では, ボール投げ以外はすべて県や全国を下回っている。
- ・男女共通の課題としては, 上位層の引き上げと, 下位層の底上げが必要である。また, 項目別では特に握力, 長座体前屈, 反復横とび, シヤトルランの強化が必要である。
- ・改善策としては, 児童生徒が自らの課題を明確にし, 意欲的に取り組み, 体力向上をめざす授業づくりに努める。また, 夏季休業中に教職員対象の実技講習会を実施し, その充実を図る。

(3) 運動実施時間



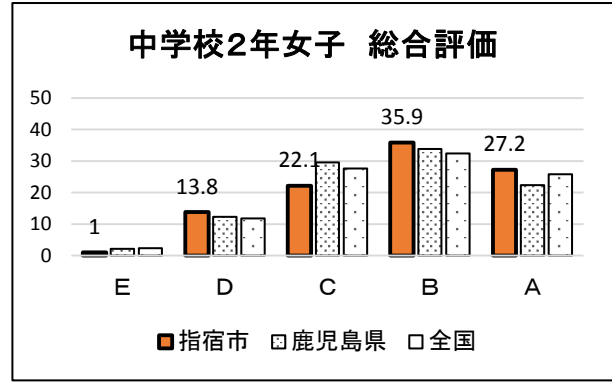
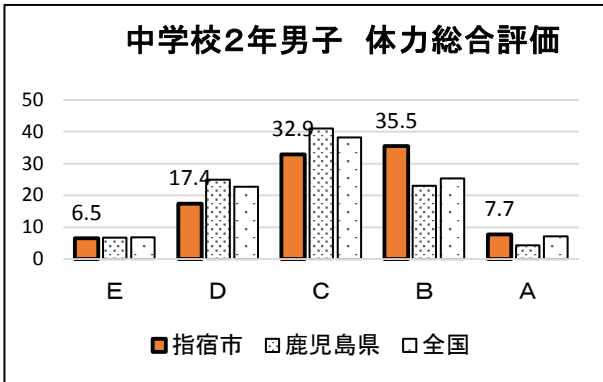
<課題及び改善策>

- ・男女ともに, 県や全国と比較して運動時間が少ない傾向にある。女子においては, 土日の運動量がかなり少なくなっている。特に, 日曜日は全国の半分程度である。
- ・学校における体力向上プログラム「チャレンジかごしま」(学級で取り組む長縄跳びなど)への積極的な取組を推進し, 運動の日常化のベースを作る。また, 「一家庭一運動」など, 家庭での取組を啓発していく。

3 平成26年度の体力・運動能力等の分析(中学校)

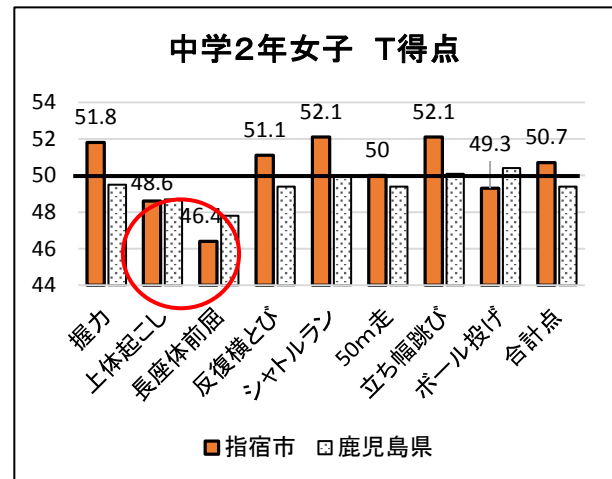
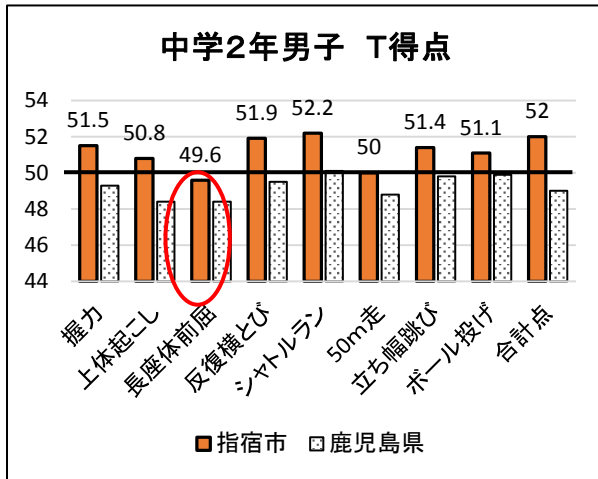
(1) 体力総合評価(5段階)の全国, 鹿児島県との比較

※ 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下



(2) 各実技調査項目のT得点(指宿市, 鹿児島県の全国との比較)

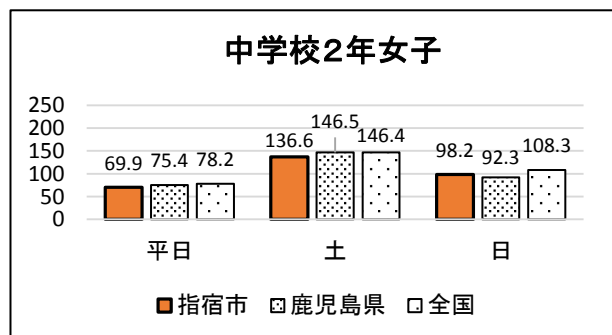
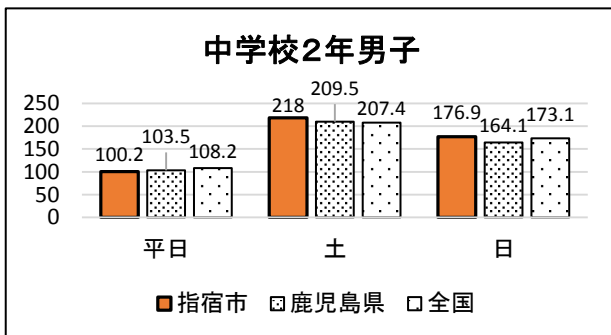
※ T得点とは, 全国平均値に対する相対的な位置を示す。全国の平均値(Tスコア)は50点で表す。



<課題及び改善策>

・男子ではC, D, Eの体力の低い生徒の割合が低く, A, Bの体力の高い生徒の割合が高い。特に, Bの割合が高く, Cよりも多い。女子においても男子と同じ傾向が見られるが, 県や全国と比べてDの割合が高い。ここに二極化の傾向が伺える。下位層の底上げが課題である。
 ・項目別では, 男子はすべての種目で県を上回っているが, その中で長座体前屈は課題である。女子においては, 長座体前屈, 上体起こし, ボール投げが県を下回っている。これらの強化が課題である。
 ・改善策は, 運動の苦手な生徒も好きになる魅力的な授業づくりに努める。あわせて, 個人の課題を明確にし, 体力向上を図る取組を実施する。各学校の体力向上に向けた取組を体育部会等で紹介する。

(3) 運動実施時間

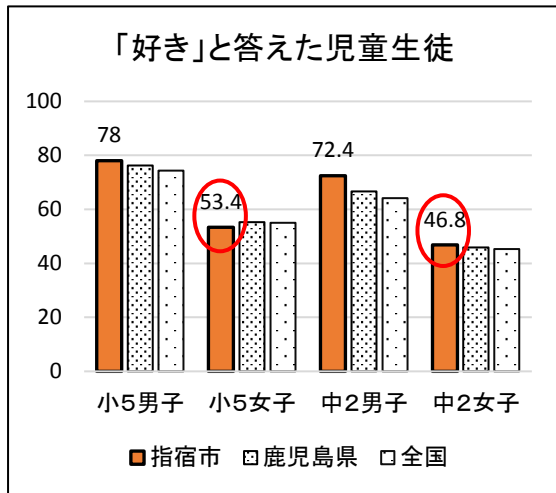


<課題及び改善策>

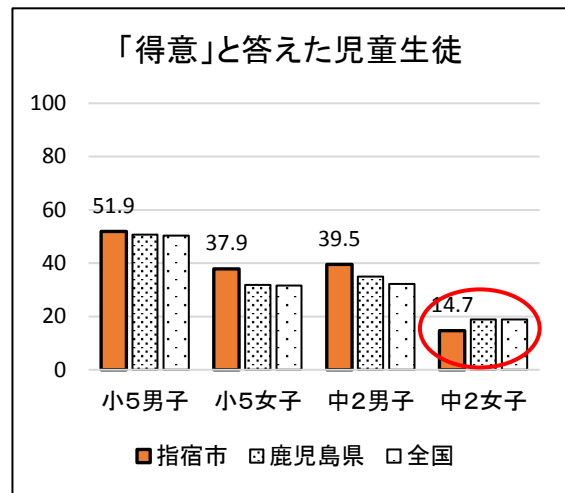
・男子の運動実施時間は, 平日は少なめだが, 土日は多い。女子は, 県や全国と比較するとやや少なめである。しかし, 小学校よりかなり運動時間が増えている。
 ・改善策として, 全校的な運動の機会を増やし, 運動部活動以外の生徒の運動機会を作っていくよう推奨していく。また, 「健幸のまち指宿」の取組として, 家庭での運動機会を積極的につくるよう啓発をしていく。

4 平成26年度の運動習慣等調査から(集計)

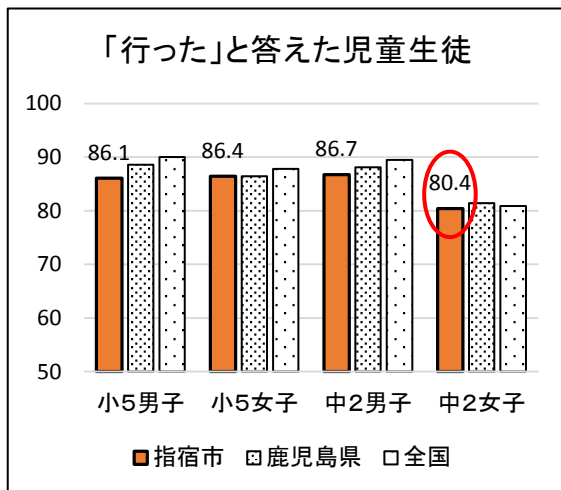
(1)運動が好きですか。



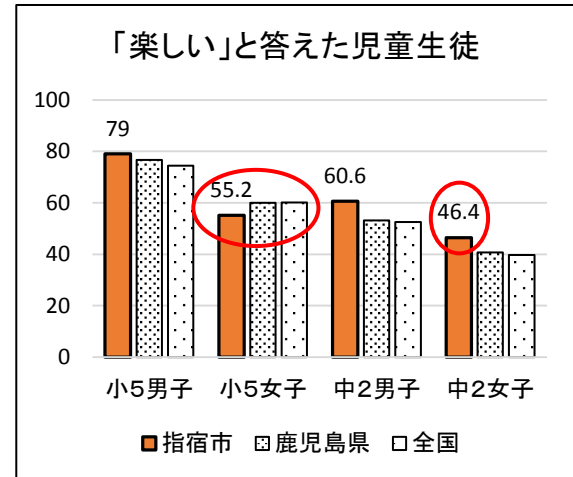
(2)運動が得意ですか。



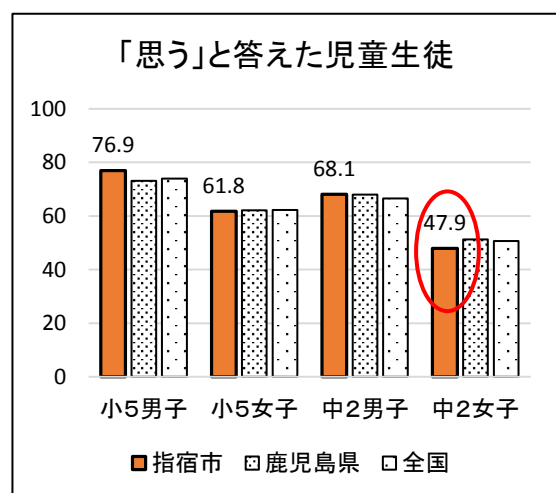
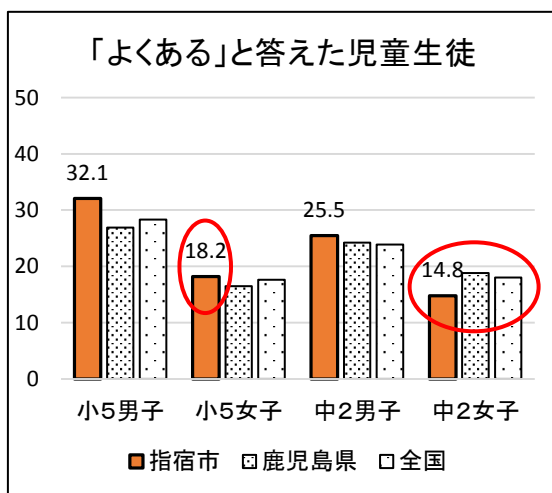
(3)長期休暇中に運動を行いましたか。



(4)体育、保健体育の授業は楽しいですか。



(5)家の人から積極的な運動のすすめがありますか。(6)卒業後も自主的に運動をしたいと思いませんか。



運動習慣等調査から（分析）

生涯にわたって運動やスポーツをしようとする意欲を高めるために

小・中学校における体育的な活動は、現在の児童生徒の体力の向上のみならず、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」をはぐくむことを目指すものです。卒業後に自主的に運動やスポーツをしたいと思う児童生徒の育成のために次のような4つ視点から本市の特徴を分析しました。

多様な運動の機会

土・日曜日や長期休暇中など、授業以外の時間にも運動やスポーツを行っている児童生徒の割合は、県や全国と比べて少ないです。

多様な運動を経験できる機会や環境を整えることが大切です。

体力の向上

今年度は中学2年男子の体力総合評価が高いですが、小学生を中心に全体的には県や全国と比べて低い項目が多いです。

運動を得意と感じる人をもっと増やすためにも体力向上は課題です。

授業の楽しさ

体育の授業が「楽しい」と感じている児童生徒は、県や全国と比較して全体的には多いです。先生方の授業の工夫などの成果です。

女子の「運動好き」をもっと増やすため「楽しい」と感じる授業へのさらなる工夫・改善が必要です。

家の人からの奨励

家の人から運動やスポーツを積極的に行うことをすすめられる児童生徒は、県や全国と比較すると多いですが、小5男子で3人に1人、中2女子は6～7人に1人という割合で、決して多くはありません。さらなる保護者からの運動のすすめが大切です。

家の方のすすめで休日の運動のきっかけづくり

家の方が運動をすすめることは、運動やスポーツをする機会を増やすことに効果があると考えられます。特に運動時間の短い女子には有効で、運動するきっかけづくりや動機づけを後押しし、運動時間を確保することが期待されます。その結果、生涯にわたる運動意欲へつながっていきます。

ぜひ、家庭で親子一緒にスポーツや運動に取り組んでみてください。

チャレンジデーは5月最終水曜日です！

※ 「子どもの体力向上」ホームページ(<http://www.recreation.or.jp/kodomo/>)などを参照してください。親子で楽しめる体力づくりが紹介されています。